

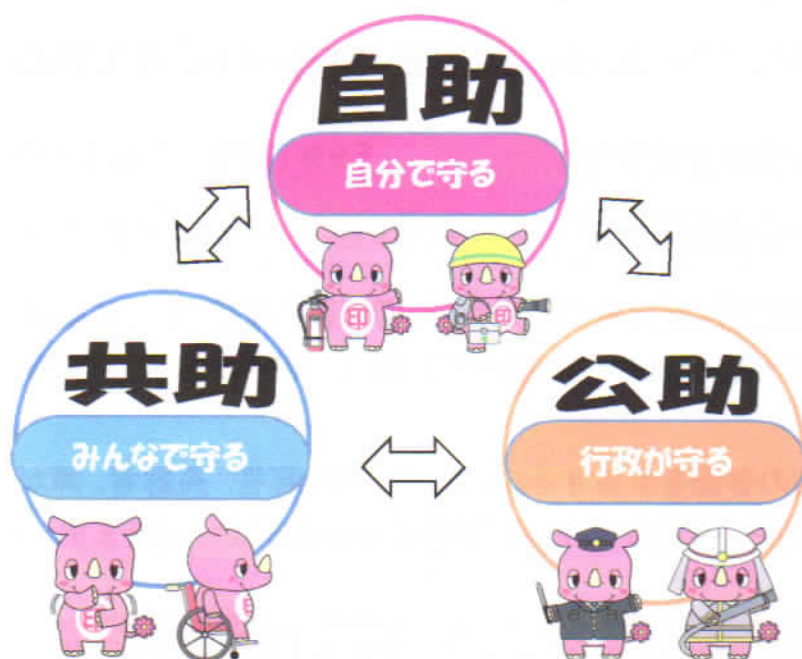
男女共同参画通信

2020年1月、立教大学教授の萩原なつ子氏を講師としてお招きし、講演会「災害に強いまちづくり」を開催しました。

東日本大震災直後から被災地支援の活動をされてきた経験から、地域のつながりの大切さや、つながる手法、男女共同参画の重要性など、大変貴重なお話をいただきました。



講師 萩原 なつ子 氏



災害が発生した際、自助・共助・公助それぞれがうまく働き、機能することで、災害の被害は大きく減ると言われています。

特に、災害発生直後は、消防・警察・自衛隊など公助による救助の手が届かないことも想定されるため、自助と共助の力がとても重要です。

災害は、家にいるときに起こるとは限りません。学校・職場・帰宅途中など、被災する場所はさまざまです。また、避難所では、知らない人たちと、何日も一緒に過ごさなければならないこともあります。家族や顔見知りのご近所だけでなく、その時たまたま居合わせた初めて出会う人と、できるだけ早くスムーズにコミュニケーションを取り、助け合うということが重要です。



近 助
ご近所同士の助け合い

萩原氏は、これを「近助」と表現しました。字のとおり、ご近所同士の助け合いという意味です。萩原氏が講演会の時に実際に行ったコミュニケーションの手法により、初めて顔を合わせたグループでもすんなりと打ち解けることができました。